



第48回解剖体慰霊祭を執り行いました

総務課総務係

10月16日(木)、医学部体育館にて、第48回解剖体慰霊祭を執り行いました。この慰霊祭は、医学の教育・研究のために尊いご遺体をご提供賜りました方々を慰霊するものです。

当日は、ご遺族、有終会会員、来賓、教職員及び医学科2年生の他学年代表、看護学科代議員等が参列し、黙祷を捧げたあと、楫医学科長が、令和6年9月末から令和7年8月までに系統解剖、病理解剖または法医解剖をさせていただいた144名の芳名録を祭壇に拝納いたしました。

続いて、竹谷健医学部長が、「ご献体は、医学を志す者にとって、生命と向き合う第一歩であり、何にも代えがたい学びの礎であります。医学生たちは、ご献体という尊い贈り物を通して、人体の構造を知るのみならず、命の重さ、そして医療に携わる者としての責任の深さを実感いたします。それは単なる学問の一過程ではなく、人間として、医師として成長するための精神的な修練の場であります。私たち医療人一同が、ご霊への感謝と敬意を決して忘れることなく、命と誠実に向き合う医療を実践してまいります。」と慰霊のことばを捧げました。

また、学生代表が、ご献体に残された痕跡から、その方の人生と闘病の様子を伺い知り、献身的な介護に思いを馳せながら解剖学実習に臨んだ旨、感謝のことばを述べました。

その後、参列者全員で献花を行い、ご献体賜りました故人のご冥福をお祈りし、閉式となりました。医療のさらなる発展のためにご献体賜りました故人の皆様、並びにご遺族の皆様の並々ならぬご理解とご厚意に心より感謝申し上げます。

問い合わせ先 総務課総務係 TEL:0853-20-2016

島根大学医学部における研修会・講演会・セミナー開催情報

2025年11月15日～12月14日

対象者: 一般 一般市民 医療 医療関係者 本学 本学教職員・学生

開催日	開催名	場所(★印 学外開催)	対象者	主催者
11月18日(火) 17:00～19:00	島根県臓器提供施設連絡会議 院内移植コーディネーター研修会 「終末期医療の一助としての臓器提供」	島根大学医学部 臨床小講堂 (ハイブリッド開催)	医療 本学	しまねまごころバンク (ヘルスサイエンスセンター島根内) 島根県医療政策課
9月1日(月)～ 11月30日(日)	令和7年度第2回肝臓病教室・家族支援講座	肝疾患相談・支援センター ホームページ上での動画配信	一般 医療	島根大学医学部附属病院 肝疾患相談・支援センター

詳細については、医学部・附属病院ホームページ【研修会・講演会・セミナー】をご覧ください。

2024年度 ワークライフバランス川柳

賞名	受賞作品	ペンネーム(又は氏名)
一瀬病院長補佐賞	疲れたら こどもにハグして エネルギーチャージ	ママさん
楫病院長補佐賞	推し事があるからお仕事頑張れる	とまと
矢野病院長補佐賞	まだ早い? 老後の余暇を 考える	犬



Shimane University Hospital
島大病院ニュース

2025年
11月
Vol.145

NEWS



表紙: 医学科長
放射線医学講座 放射線科 教授 兼 科長 楫 靖

CONTENTS

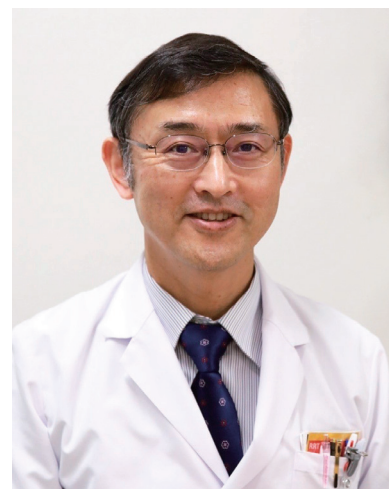
・医学科長就任のご挨拶
・看護学科長就任のご挨拶

・第48回解剖体慰霊祭を執り行いました
・研修会・講演会・セミナー開催情報



医学科長就任のご挨拶

医学部医学科 放射線医学講座 教授 かじ やすし
梶 靖



このたび、2期目の医学科長を拝命いたしました、放射線医学講座の梶靖です。日頃より、県内の医療機関の皆様には医学科生の実習等にご協力いただき、誠にありがとうございます。皆様方のお力添えと、学内教職員の連携により、医学科の教育が成り立っています。

第1期の2年間では、石原前医学部長の指導の下、医学教育分野別評価の受審結果を分析し、優先度の高い課題への取り組みを開始しました。竹谷新医学部長も同様な方針で進められるため、これまでの取り組みが途切れることなく、着実に成果につながるものと考えております。

医学部医学科に課せられた最も重要な使命は、医療・医学に貢献する医師を養成し輩出することです。私たち教職員は、医師を志す学生たちが、日々成長していく姿を見守り、支えていく責任を担っています。

近年は、学生の多様性が広がり、それぞれが異なる背景や価値観を持って学修に励んでいます。このような中で、学生に寄り添いながら柔軟な教育を展開することで、より深い学びの機会が生まれます。一方で、学生の自主性を尊重しつつ、教職員の負担が過度にならないようにバランスを保つことも重要です。

医学科と医学部附属病院が一丸となり、地域の方々のお力もお借りしながら、適切な指導を繰り返す中で学生の可能性を引き出し、社会に役立つ人材を育てていきます。

今後とも、島根の、日本の、世界の医療を担う人材育成へのご理解とご協力を賜りますよう、宜しくお願い申し上げます。

問い合わせ先 放射線医学講座 TEL:0853-20-2289

看護学科長就任のご挨拶

医学部看護学科 臨床看護学講座 教授 やまもと まさひろ
山本 昌弘



2025年10月1日付で医学部看護学科長を拝命いたしました、臨床看護学講座（臨床医学）の山本 昌弘と申します。

看護学科は1999年4月に開設され、2003年に大学院医学系研究科看護学専攻（修士課程）が設置されました。2012年に開設した助産師養成課程は、2021年に大学院医学系研究科看護学専攻（博士前期課程）の助産学コースへ移行しましたが、追加の単位取得や進学により、看護師以外にも保健師、養護教諭、助産師の4種の国家資格の受験資格者を養成する学科です。

看護職の活動は医療機関における看護業務に限りません。日常の生活の場や学校において社会生活を営む一般市民の健康状態を維持・増進し、疾病の罹患を予防する健康保健活動、疾病者の在宅療養の継続の支援、そして母児に対し妊娠・分娩・産後を通じた一連の健康指導など、市民生活の中で医学知識を必要とする場面に対処できる看護職は、島根県のような超高齢社会では重要度が増しています。現職に至るまでに在職した島根大学医学部内科学第一で培ってきた学部学生の卒前教育や卒後の医師教育、臨床研究活動、内分泌代謝内科医としての視点を活かし、本学看護学科に寄せられる期待に応える看護教育の向上を目指しています。

私は2025年2月に看護学科の医系教員として現職に就いた直後であり、看護学科長の責務は経歴に見合わぬ大任です。竹谷健医学部長のご指導の元、梶 靖医学科長と協働し、地域社会からの要請に応えられるよう、看護水準の向上を導く指導者的看護師の育成と輩出に努めてまいりたいと考えています。

問い合わせ先 看護学科事務室 TEL:0853-20-2314



島大病院ニュース 2025年11月

お知らせ

血管総合診療センター長就任のご挨拶

血管総合診療センター長

さいとう ゆうへい
齋藤 雄平

この度、「血管総合診療センター」を開設することとなり、センター長を拝命いたしました島根医大10期生の齋藤雄平と申します。

これまで大動脈疾患・閉塞性動脈疾患・外傷等の血管疾患は、心臓血管外科を中心とした外科治療が主体でしたが、近年では複数の治療法を組み合わせたより低侵襲、専門的かつ包括的な診療が求められてきています。全国的には「血管外科」といった専門科がその役目を担っていますが、当院には専門診療科が存在せず、特に動脈疾患に対する総合的な診療体制が十分に整っていませんでした。そこで、これまでの「下肢血管センター」を「血管総合診療センター」と改組し、動脈・静脈疾患に対する専門グループを内包し、窓口を一本化することで、より包括的な診療体制の構築を目指すこととなりました。静脈疾患は、島根県初となる静脈疾患専門センターとして、新原寛之副センター長を中心に診療体制をさらに強化して参ります。

麻酔科、内分泌代謝内科（糖尿病）、リハビリテーション科、看護部（皮膚・排泄ケア）、放射線部、検査部、医療機器診療支援センターもメンバーとなっており、単なる血管の治療に留まらず、周術期管理・ADLの維持・創傷管理を含めた全身の“Care”を集学的に行うことを目指します。当院の総合力を結集した、まさに病院全体の力の結晶といえるものです。

今後は次世代を担う医療人材の確保・育成にも力を注ぎ、地域の医療機関の皆様との連携を一層深めながら、よりよい治療の提供に努めて参ります。センターの活動と診療に御指導と御支援を賜りますよう、どうかよろしくお願い申し上げます。

～専門外来 開設のご案内～

*動脈疾患：水曜日 午前（外来場所：1階外科）

*静脈疾患：水曜日 午後、金曜日 午前（外来場所：2階皮膚科）

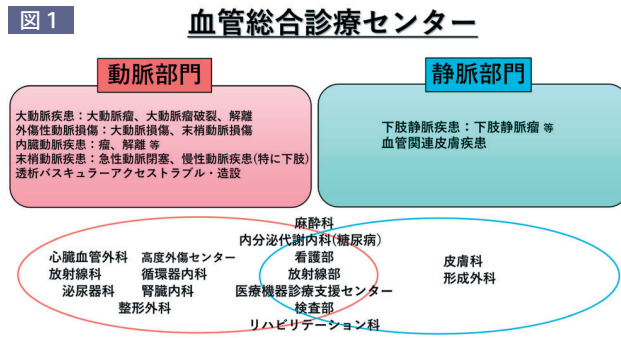
緊急症例にも積極的に対応しますので、お困りの症例などがございましたら、どうぞ御遠慮なく御相談・御紹介ください。

問合せ先 心臓血管外科 医局 TEL：0853-20-2225

予約申込方法は裏面記載あり



センター集合写真 前列中央（著者）



血管総合診療センター
ホットライン(24時間対応) TEL:080-4155-4383

※医療機関からの電話のみ対応します

島根大学医学部附属病院紹介患者予約申込書(FAX)

令和 年 月 日

(医療機関専用) (令和7年10月改定)

島根大学医学部附属病院

地域医療連携センター 行

FAX 0853-20-2063

TEL 0853-20-2061

受付時間:8時30分～19時

紹介医療機関名称

医師氏名(診療科)

電話番号 () -

FAX番号 () -

患者様は貴院でお待ちですか?→ ☐ はい ☐ いいえ

●患者基本情報 ※必ずふりがなをご記入下さい

ふりがな	旧姓	性別	生年月日
患者氏名		男・女	大・昭・平・令 年 月 日(歳)
住所	〒 -	電話番号	
受診歴	有・無・不明	携帯電話	
診察券番号	-		

※当院より連絡する場合があります。

●受診診療科 ※各科の専門領域については診療案内をご覧ください。

☐ 内分泌代謝内科	☐ 血液内科	☐ 腫瘍内科★	☐ 消化器内科	☐ 肝臓内科	☐ 脳神経内科
☐ 膠原病・リウマチ内科	☐ 呼吸器・化学療法内科	☐ 腎臓内科	☐ 循環器内科	☐ 肝・胆・膵外科	☐ 小児外科
☒ 皮膚科	☐ 形成外科	☐ 小児科	☐ 消化器外科	☐ 整形外科(部位:)	☐ 小児外科
☐ 乳腺外科	☒ 心臓血管外科★	☐ 呼吸器外科	☐ 整形外科(部位:)		
☐ 脳神経外科	☐ 泌尿器科	☐ 精神科神経科★	☐ 婦人科	☐ 産科	
☐ 耳鼻咽喉科・頭頸部外科★	☐ 眼科★	☐ 放射線科★	☐ 麻酔科(ペインクリニック)		
☐ 歯科口腔外科	☐ リハビリテーション科★	☐ 総合診療科	☐ もの忘れ外来		

※1 下線部診療科については、診療情報提供書を可能な限り添付にてFAX送信してください。(原本は受診時に持参ください)

※2 ★の診療科については、外来で受診してからのお返事になりますので、お返事に時間がかかります。予めご了承下さい。

●希望医師 ※原則、初診担当医に。 ※とさせていただきます。

医師	氏名	特殊外来 (血管総合診療センター)
----	----	---------------------

●受診 静脈疾患は皮膚科へ☑を

① 動脈疾患は心臓血管外科へ
② ☑をお願いいたします。

●紹介目的・依頼内容・症状 ※必ずご記入ください。診療情報提供書を添付していただいてもかまいません

緊急性: ☐ 有り ☐ 無し	病名(疑い病名):
紹介目的及び症状経過:	

折り返し「紹介患者予約連絡票」をFAXいたしますので、患者様にお渡し下さい。
受付時間(8:30～19:00)を過ぎてのお申し込みは翌診療日にお返事させていただきます。

患者予約申込書の
特殊外来の()の中に

「血管総合診療センター」

と明記して紹介状を添付して
FAXにてお申し込みください。

お知らせ
島大病院ニュース

2025年11月発行
編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会
問合せ先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課
TEL:0853-20-2068 FAX:0853-20-2063
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ <https://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>



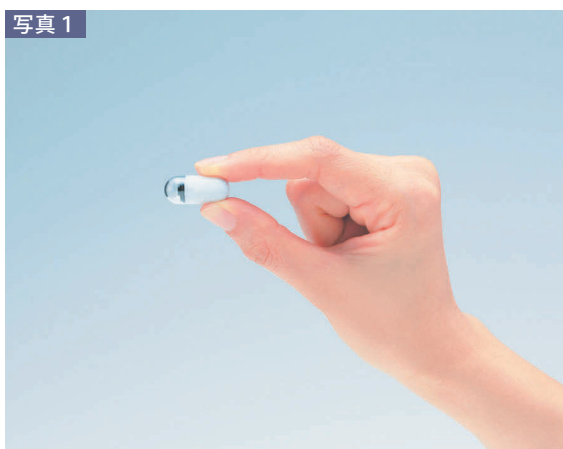


島大病院ニュース 2025年11月

お知らせ

カプセル内視鏡とダブルバルーン内視鏡による 小腸内視鏡診療

光学医療診療部 助教 かたおか まさとし
片岡 祐俊
消化器内科 講師 かわしま こうさく
川島 耕作



カプセル内視鏡

写真2



ダブルバルーン内視鏡

写真3



ダブルバルーン内視鏡レントゲン写真

当院光学医療診療部では、小腸精査のためにカプセル内視鏡とダブルバルーン内視鏡を用いた検査を行っています。

【カプセル内視鏡検査】

カプセル内視鏡は内服薬のように口から飲み込んだ後に、消化管（主に小腸）の内部を撮影することができ、幅11mm、長さ26mmのカプセル型内視鏡です（写真1）。蠕動によって自然に腸を通過する間に写真撮影を行うため、外来で検査可能です。検査中も基本的には普段と変わらず日常生活を送ることができ、患者さんの負担が少ない検査です。検査対象は原因不明の小腸出血など小腸の病気全般です。一部の患者さんで実施に制限がありますので、検査をご希望の場合は当院へのご紹介をご検討ください。

【ダブルバルーン内視鏡】

内視鏡とその外筒についた2つのバルーン（風船）を利用して、小腸をたぐり寄せて縮めながら行う小腸内視鏡検査です（写真2、3）。従来の内視鏡が到達できなかった小腸を観察し治療することが可能になりました。口からカメラを挿入する上部検査と肛門から挿入する下部検査がありますが、先のカプセル内視鏡と組み合わせることで病気の位置の特定や診断をより正確に行うことができ、検査方針がより正確に決定できます。対象はクローン病などの小腸疾患の診断や処置（バルーン拡張）、術後再建腸管の胆膵疾患の処置、大腸内視鏡挿入困難例の大腸観察などです。ダブルバルーン検査が必要な方も、ぜひ当院へご紹介ください。

問合せ先 光学医療診療部 TEL：0853-20-2414



2025年11月 発行
編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会
問 合 せ 先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課
TEL：0853-20-2068 FAX：0853-20-2063
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ

<https://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>



島大病院ニュース 2025年11月

ご報告



医学部・附属病院合同災害訓練を行いました

災害医療・危機管理センター センター長 わたなべ ひろあき
渡部 広明

10月3日（金）に、年1回行う医学部および附属病院の合同大規模災害訓練を実施いたしました。2年前から附属病院だけではなく、医学部の災害対応もできるよう医学部との合同の訓練を行っております。今回総勢200名を超える職員が訓練に参加しました。訓練は大規模地震を想定した災害に対して、災害対策本部の設置と現地診療指揮所での傷病者受入の訓練を行いました。病院長を頂点とした災害時の指揮命令系統の構築、被災情報の集約と職員数の把握、状況分析と課題の整理、状況に応じた本部での作戦の立案などを実際に行いその作業手順を確認しました。

今回の訓練ではテーマの一つに「受援」をあげ、全国からのDMATやその他の災害関連チームの受入を本院としてどのように行うのかなどの確認作業とプランの検証も行いました。DMATの受援訓練として県下の3医療機関（雲南市立病院、大田市立病院、益田赤十字病院）から実際に本院へお越しいただき受援訓練にもご協力いただきました。また、医学部側としてはANPICという安否確認システムを使用して医学部学生の安否確認の訓練を行いました。

近年、大規模地震に限らず様々な災害が全国各地で発生しています。緊急事態の一つである災害発生に対して混乱を発生することなく、地域への医療提供が維持できるよう日々取り組みを進めております。



問合せ先 災害医療・危機管理センター（DiMCOC） TEL：0853-88-3040



2025年11月 発行
編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会
問 合 せ 先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課
TEL：0853-20-2068 FAX：0853-20-2063
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ

<https://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>





島大病院ニュース 2025年11月

ご報告

ワークライフバランスセミナーを開催いたしました

地域医療支援学講座 助教 ほった ゆきえ
堀田 優希江

地域医療支援学では島根県からの委託を受けて、ワークライフバランス事業を行っています。この度、9月12日（金）にワークライフバランス支援室、島根大学ダイバーシティ推進室と共催にてセミナーを行いました。講師として、癒しの環境研究会理事長の高柳和江先生をお招きし「笑い療法で心身のケアを学ぶ」と題し、開催しました。

先生は神戸大学医学部を卒業後、クウェートの国立病院で10年間にわたり小児外科医療に従事した経験を共有されました。笑いが自己治癒力に与える影響をテーマに、クウェートで学んだ笑い療法や、パッチ・アダムスが実践した自然な笑いの重要性が紹介されました。

また、生活を楽しむ人ほど循環器疾患や脳卒中のリスクが低下することが示され、さらに女性首相の国々で新型コロナウイルス対応の良好な成果も紹介されました。加えて、女性に多く見られるインポスター症候群や自己認識・共感力の大切さが語られ、ノルウェーの政治家の事例を通じて女性の政治参加の意義が強調されました。

最後に「感動の笑いと感動を一日五回体験すること」を提案されました。70名を超える参加者があり、笑いあり、PBL（Project Based Learning）ありと学びの機会となりました。参加者が自然と笑顔になり元気がでる、充実した時間となりました。

今後もワークライフバランス支援室と協力しながら、職場環境の改善、仕事家庭の好循環を目指して活動を継続したいと思います。ご相談があれば是非ご利用ください。



問合せ先 地域医療支援学講座 TEL：0853-20-2558



講師の高柳和江先生



島大病院ニュース 2025年11月

ご報告

解析編

データで読み解く患者満足度アンケート —スコア×影響度マトリックスによる改善項目の可視化—

患者満足度向上WG
医療情報部 准教授 かわむら としひこ
河村 敏彦

当院ではこれまで患者満足度アンケートの結果をもとに、「満足度に影響する要因」を定量的に可視化してきました。しかし、実際の改善活動においては、「どの項目から手をつけるべきか」「改善効果が大きいのはどれか」を直感的に把握できる手法が求められます。

そこで今回は、**平均スコア×影響度の2軸からなるマトリックス図**を導入しました。横軸に各質問項目の平均スコア、縦軸に満足度に与える影響度（偏回帰係数）を配置し、スコアが低く影響度が高い改善項目を「重点改善領域」として明示しています。図に示すマトリックスは、各項目がどの領域に分布しているかを視覚的に把握できるようにマッピングしたものです。これにより、左上の領域（平均スコアが低く、影響が大）に位置づけられ、満足度を向上させるうえで改善効果が大きいことが示唆されました。

このように、スコアと影響度の両軸で項目をマッピングする可視化手法は、限られたリソースのなかで最大の効果を得る「カイゼン」のための戦略立案に極めて有用です。今後もこうした分析をもとに**重点指向に基づいた改善**に取り組んでまいります。

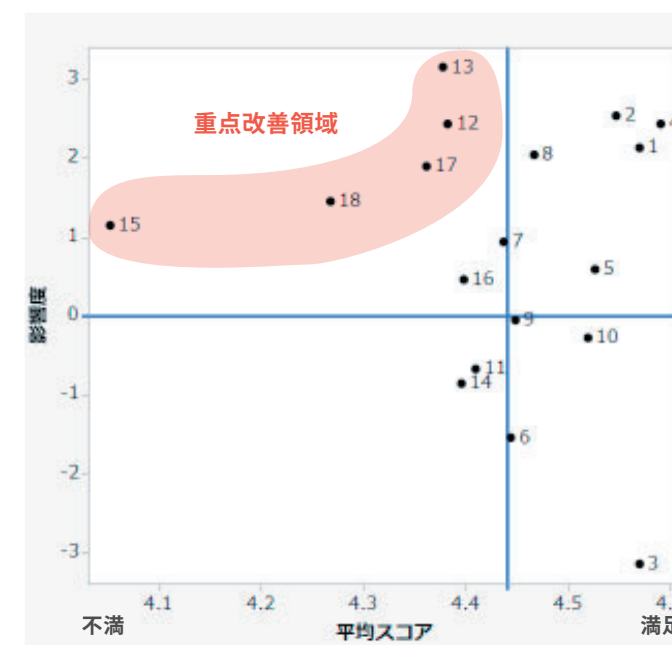


図 平均スコア×影響度マトリックス

項目リスト

①医師の傾聴	⑩リハビリ職員の対応
②医師の説明	⑪栄養士の対応
③医師の対応	⑫相談員の対応
④看護師の傾聴	⑬職員間の連携
⑤看護師の説明	⑭プライバシー配慮
⑥ナースコール対応	⑮食事
⑦受付職員の対応	⑯病室の清潔感
⑧検査職員の対応	⑰病室・水回りの快適さ
⑨薬剤師の対応	⑱案内板のわかりやすさ

※横軸の平均スコアは、アンケート項目の1～5点評価（1＝非常に不満、5＝非常に満足）を平均したものです。

問合せ先 医療サービス課 TEL：0853-20-2067



2025年11月 発行
編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会
問 合 せ 先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課
TEL：0853-20-2068 FAX：0853-20-2063
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ

<https://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>



2025年11月 発行
編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会
問 合 せ 先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課
TEL：0853-20-2068 FAX：0853-20-2063
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ

<https://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>





島大病院ニュース 2025年11月

ご報告



集合写真



仲間づくりゲーム

新人看護職員リフレッシュ研修を実施しました

看護部 看護教育支援室 看護師長 いけど ひろゆき
生土 博之

新人看護職員は入職後半年が経過し、医療チームの一員としての自覚を持ちながら看護実践の経験を積み重ねています。その一方で任される仕事も増え、緊張感のある日々を送っています。そこで職場を離れリラックスした雰囲気の中で同期の仲間との親睦を深め、絆を築くことを目的に、9月30日（火）島根県立青少年の家「サン・レイク」にて新人看護職員リフレッシュ研修を実施しました。

当日は天候に恵まれ、気持ちのよい青空のもと活動を行いました。午前中は、チームで協力して課題を解決するプログラム「仲間づくりゲーム」に取り組みました。声を掛け合いながら課題に挑戦することで、チームワークの大切さを改めて実感しました。午後は、炭火をおこし焼き上げる「バウムクーヘンづくり」に挑戦。仲間と力を合わせ、一つのものを完成させる達成感を味わうことができました。

研修を通して、新人看護職員はコミュニケーションやチームでの協働の重要性を体験するとともに、同期の仲間と絆を強めることができました。何より「明日からまた頑張ろう」という前向きな気持ちにつながったことが大きな収穫です。

今後も当院では、知識や技術の習得にとどまらず、精神面へのサポートにも力を入れ、働き続けられる職場づくりを支えていきます。そして患者さんやご家族に安心していただける看護を提供できる人材の育成に努めていきます。今回得られた経験を糧に、新人看護職員が仲間の絆を力に変えて、さらに成長していくことを期待しています。

問合せ先 看護管理室 TEL：0853-20-2478



2025年11月 発行
編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会
問 合 せ 先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課
TEL：0853-20-2068 FAX：0853-20-2063
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ

<https://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>



島大病院ニュース 2025年11月

お知らせ

島根大学医学部創立50周年記念事業 寄附者御芳名板を設置

総務課 企画調査係

島根大学医学部では、創立50周年を記念し、温かいご寄附をお寄せくださった皆様への深い感謝の意を込めて、9月に「寄附者御芳名板」を医学部附属病院1階に設置いたしました。

この御芳名板は、記念事業にご支援くださった方々のご厚意を顕彰するものです。

個人・法人・団体を問わず、一定の基準を満たした方々のお名前を掲示しておりますが、氏名の公表を希望されない方々を含め、医学部として寄附者の皆様に心より感謝と敬意を表します。

今回の掲示対象は令和7年6月末までにご寄附いただいた方々であり、今後もしも芳名の追加掲載を継続してまいります。

また、氏名公表にご同意いただいた寄附者の皆様のご芳名は、医学部創立50周年特設サイトにて、感謝の気持ちを込めて掲載させていただいております。

記念事業の趣旨にご興味をお持ちの方や、詳しいご案内をご希望の方は、特設サイトをご覧ください。事務局までお気軽にお問い合わせください。ご希望に応じて、資料の送付なども承っております。



お問い合わせ先



総務課 企画調査係
E-mail：50th@med.shimane-u.ac.jp
TEL：0853-20-2018
FAX：0853-20-2025
〒693-8501 島根県出雲市塩冶町 89-1

<50周年特設サイト>



皆様のご寄附は、未来の医療人育成と地域医療の発展に向けた大きな力となります。改めて御礼申し上げます。



2025年11月 発行
編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会
問 合 せ 先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課
TEL：0853-20-2068 FAX：0853-20-2063
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ

<https://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>





島大病院ニュース 2025年11月

ご報告

消化器・総合外科の医局員が 新たな資格を取得しました！

消化器・総合外科 講師 まつばら たけし
松原 毅

このたび当科の医局員が、それぞれの専門分野において新たな資格を取得しましたので、ご報告いたします。

① 上部消化管グループ松原毅講師と大腸グループ谷浦隆仁助教が、日本ロボット外科学会より国内 B 級ライセンス (Robo-Doc Pilot 認定) を取得しました。

このライセンスは、ロボット支援手術を行うにあたって必須となる知識と技能を身につけ、安全に手術を実施できることを証明するものです。ロボット支援手術は低侵襲手術として注目されており、今後ますます需要が高まっていく分野です。今回の認定取得は、当科におけるロボット手術の発展、さらには安全で確実な手術提供に直結する大きな成果といえます。



ロボット外科学会 国内 B 級ライセンスを取得した松原講師(左)と谷浦助教(右)

② 肝胆膵グループ中村光佑助教は、日本肝臓学会認定 肝臓専門医に認定されました。

肝臓専門医は、肝炎・肝硬変・肝癌など幅広い肝疾患に対して高度な専門知識と診療経験を有することを示す資格です。日常診療や研鑽の積み重ねが評価されたものであり、今後、肝疾患を抱える多くの患者さんに対して、さらに質の高い診療を提供できるようになります。



肝臓専門医に認定された中村助教

いずれの資格も、取得には相応の努力と経験が必要であり、当科では今後も、各分野における専門性の向上を積極的に支援し、医局員一人ひとりの成長がチーム全体の力となるよう努めてまいります。私たちの医局は、こうした資格取得を通じて着実に力を高め、患者さんにより安心して医療を提供できる医局へと変貌しています。

地域の先生方には、ぜひ当科へ患者さんをご紹介いただき、より高度で安全な医療の提供にご一緒に取り組んでいただければ幸いです。

問合せ先 消化器・総合外科 医局 TEL：0853-20-2232



2025年11月 発行
編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会
問 合 せ 先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課
TEL：0853-20-2068 FAX：0853-20-2063
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ <https://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>



島大病院ニュース 2025年11月

ご報告

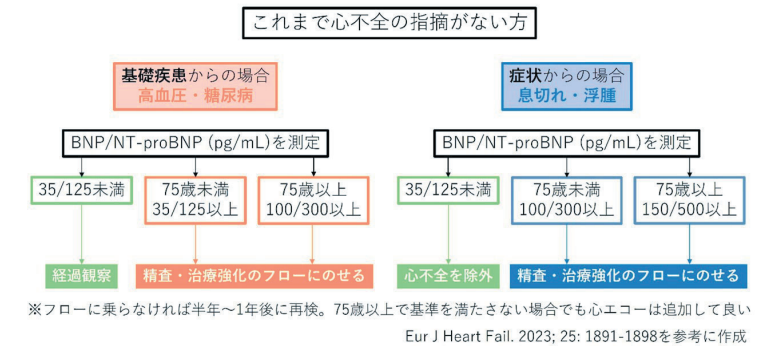
STOP!心不全 ～しまこねフォーラムイベントを開催しました～

循環器内科 たなべ じゅんや
田邊 淳也



会場の様子

BNP/NT-proBNPによる心不全地域連携



2025 年 3 月に日本循環器学会・日本心不全学会による「2025 年改訂版 心不全診療ガイドライン」が発表され、心不全の進展防止や早期の治療介入の重要性がこれまで以上に強調されるようになりました。

特に今回の改定では、「Universal definition and classification of heart failure」に基づいた心不全の定義と分類が採用され、BNP/NT-proBNP の国際的な基準値の統一や測定の推奨が大きな改訂ポイントとなっています。

島根コネクトフォーラム (しまこね) は心不全診療の質向上を目指し、医師や医療従事者、行政関係者の方々が協力して地域医療体制の構築と強化に取り組むプロジェクトです。昨年に引き続き、出雲医師会および島根県出雲保健所のご協力を得て、9 月 11 日 (木) に約 60 名の先生方や医療スタッフの皆様にご参加いただき、イベントを開催しました。当日は「出雲で取り組む STOP !心不全」をテーマに掲げ、BNP/NT-proBNP を用いた心不全の早期診断や早期介入の具体的な流れについて、当院で設定した基準値やシチュエーションごとの対応フローを用いながら説明、共有しました。

今後も地域における持続可能な心不全診療体制の構築を目指し、継続的に取り組みを進めてまいります。

問合せ先 循環器内科医局 TEL：0853-20-2249



2025年11月 発行
編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会
問 合 せ 先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課
TEL：0853-20-2068 FAX：0853-20-2063
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ <https://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>





島大病院ニュース 2025年11月

ご報告



島大病院ニュース 2025年11月

お知らせ



経皮的心房中隔欠損(ASD)閉鎖術の施設認定を取得しました

循環器内科 診療科長
診療助教

たなべ かずあき
田邊 一明
おかだ たいじ
岡田 大司

●経皮的心房中隔欠損(ASD)閉鎖術のCVIT施設認定を取得しました

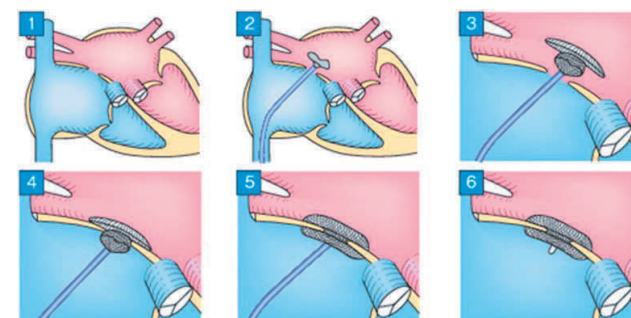
当院循環器内科は、日本心血管インターベンション治療学会(CVIT)が運用する経皮的心房中隔欠損(ASD)閉鎖術の施設認定を取得し、院内でのASD閉鎖術の提供体制を整備しました。

ASDは40歳以上の成人先天性心疾患の35～40%を占めると報告されていますが、若年期は無症状のことも多く見逃されやすい疾患です。比較的若年で心房細動／心房粗動を発症した場合、また若年～中年で脳梗塞を発症し奇異性塞栓が疑われる場合、心エコー図検査で説明のつかない右房・右室拡大を認める場合には、ASDを念頭に置くことが重要です。

右心系拡大を伴う有意な左から右へのシャントがある場合は、無症候でもASD閉鎖が推奨されています。二次孔型はカテーテル治療の適応となり、一次孔型・静脈洞型・冠静脈洞型では外科的閉鎖が推奨されます。適応の最終判断は、経食道心エコーなどによる解剖学的・血行動態評価を行い、ハートチームで協議のうえ決定します。超音波ガイド下で安全性に配慮して手技を行い、術後疼痛の軽減・早期離床・入院期間の短縮に努めます。

～地域の先生方へ～

当院は、循環器内科と心臓血管外科が連携した低侵襲治療体制を整えております。奇異性塞栓の既往、あるいは検査でASDが疑われる際には、成人先天性心疾患外来(毎週月曜・水曜の午後)へご紹介ください。適応評価から治療、フォローアップまで責任をもって対応いたします。



ASDに対するカテーテル閉鎖術の流れ

※2021年改訂版 先天性心疾患、心臓大血管の構造的疾患(structural heart disease)に対するカテーテル治療のガイドラインから引用改変

島根県西部の医療を盛り上げる！ 「ウェスタンカーニバル2025」開催報告

総合診療医センター

助教

さかくち こうた
坂口 公太
へた けんいち
邊田 健一

浜田市国保診療所連合体あさひ診療所 所長

9月13日(土)・14日(日)の2日間、浜田市にて、いわみCMC(いわみ Community Medical Care)主催、当センター協力のもとウェスタンカーニバルを開催しました。本イベントは、島根県内で働く医療スタッフおよび学生が一同に介し、県西部の医療課題や各々の取り組みについて語り合い交流を深めるためのもので、今年は総勢70余名の医療者のみなさんにご参加いただきました。

1日目は浜田医療センターを会場に、済生会江津総合病院など県西部の各医療機関の代表者が、日頃の実践や医療に対するそれぞれの思いを語りました。異なる医療機関のさまざまな立場で奮闘する講師の皆さんの講話は、どれも大変刺激的なものでした。後半のテーマは「県内の医療者不足と偏在をどう改善するか?」。人材育成に最前線で携わっている講師の方々の発表と参加者全員によるグループワークから、『柔軟な働き方×魅力的な職場・地域PR×良い指導者』が若手を呼び込むカギと思われました。

2日目は杵束まちづくりセンター(浜田市弥栄町)を会場に、一般参加者も交えてACP(アドバンス・ケア・プランニング=人生会議)についての講演会を開催しました。講師の岡本栄祐医師(益田赤十字病院)が、人生の最期をより良いものにするためにどう「死」と向き合っていくべきか、ピアニスト山根ゆい氏の演奏と共に、会場参加者にメッセージを送りました。感動で涙した方もたくさんおられ、一人ひとりの心に響く素晴らしい講演会でした。2日間を通して、医療機関の垣根を超えた交流と人脈形成が実現でき、大変有意義な機会でした。



問合せ先 総合診療医センター TEL:0853-20-2217

問合せ先 循環器内科医局 TEL:0853-20-2249



2025年11月発行
編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会
問合せ先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課
TEL:0853-20-2068 FAX:0853-20-2063
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ

<https://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>



2025年11月発行
編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会
問合せ先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課
TEL:0853-20-2068 FAX:0853-20-2063
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ

<https://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>





(Basic Life Support) 高校生にBLS講習を実施しました！

高度外傷センター 救急救命士 糸原 誠二
いと はら せいじ

私達、救急救命士は、専門知識と実臨床の経験を活かし、地域住民のみなさまに安全で安心して暮らせる社会を届ける職種の一員として BLS 講習を行っています。

この講習は“いざ”という時のための知識と技術を身につけ、命にかかわる重篤な状況下で、勇気をもって手を差し伸べられる救命のリレーメンバーを育成し、地域の救命率向上に繋げることを目的として取り組んでいます。

この度、10月1日（水）から3日（金）まで、島根県立出雲高等学校1年生270名（※3日間合計）を対象に、当院の高度外傷センター救急救命士による BLS 講習を実施しました。

講習では、まず応急手当の重要性を理解していただいた上で、「反応の確認」や「呼吸の有無の確認」といった初期対応の重要性について救急救命士のデモンストレーションを交え説明し、生徒さん同士でペアをつくり実際に声かけや観察を行う練習をしました。続いて、胸骨圧迫（心臓マッサージ）の方法を学び、正しい圧迫の位置や形、圧迫の深さ・テンポ及び圧迫解除を意識しながら、訓練用マネキンを使って実技を中心に実施しました。

1時間40分という短い時間でしたが、時間を追う毎に生徒のみなさんが主体的となり、私達もつい指導に熱が入り、体育館いっぱい、助けを求める声（「大変です、誰か来てください！」）がこだましていました。限られた時間の中でも、命を守るための基本的な知識と技術をしっかりと身につけることができた有意義な講習となりました。

今後も専門性とリアリティのある指導を心掛け、地域との信頼関係構築、助け合う文化の醸成に努めてまいります。

問合せ先 高度外傷センター（医局） TEL：0853-20-2757

